

HamaBridge 濱橋会と運河チャレンジへの参加

株式会社オオスミ

松川晋弥

神奈川県横浜市には大岡川と中村川を交通・情報・生活の要にしながら発展してきた地域があります。その地域のネットワーク作りを行い、新しい街づくりを行っていくのがNPO法人HamaBridge 濱橋会です。

濱橋会では様々な活動を行っていますが、その一つに運河チャレンジがあります。濱橋会のHPでは運河チャレンジについてこのように記載されています。「かつて吉田新田を中心とした横浜の旧市街地である関内・関外地区をフィールドに、一歩先の未来を実現しようと、地元の人、団体、企業が連携してチャレンジするイベントです。」その内容は運河を船でめぐる企画があったり、出店あり音楽ステージありと様々なイベントが催されるお祭りです。複数の会場で運河全体をカバーするため、かなりスケールの大きいイベントになります。

2022年で10回目を迎えたこのイベントですが、株式

会社オオスミは第4回から連続して環境調査のブースを出展させてもらっています。自社の知名度のアップが目的の一つにはありますが、身近にある運河の環境調査に関する紹介をすることで多くの人に環境に関する興味を持ってもらうことももう一つの目的としています。

今回、2022年11月の運河チャレンジに参加した際、どのように考えて進めていったのかを紹介します。

1. 準備

運河チャレンジへの参加が決まってから、どんな内容のブースを展開すれば多くの人に興味を持ってもらえるかを考え始めました。前年参加時に感じたことをベースに、小学生くらいの年齢層に楽しんでもらえるような環境調査疑似体験ブースにすることにしました。そこから過去の経験を基に、実際に来てもらった人に環境調査っ



当日の様子

てちょっと面白いなと思ってもらうように、想像力を働かせて考えていきます。「去年来てくれた子供はpH計のデジタル数値表示にはあまり反応がよくなかったからpH試験紙で色の変化を見せる方が良いかもしれない」といった感じです。

最終形は、まず試料採取体験から分析体験に進んでもらい最終的にオリジナルの結果証明書を発行してもらうというスタイルで、環境調査を一通り体験してもらえるようなブース構成としました。内容の提案がかなり遅くなってしまったにもかかわらず必要なスペースと道具を確保していただき、濱橋会の実行メンバーの方にはとても助けていただきました。必要な小物を買い集め、本番当日に向けて予行演習を行いより良いブースになるように微調整をかけていきます。

2. 本番

迎えた当日、よく晴れて暖かい絶好のお祭り日和となりました。ブースは蒔田公園という公園の一角に設置し

ます。実際にブースを組み立てていくと、平面と思っていたところも傾斜が少しあったりと、どうしても想定と異なる状況が発生します。環境調査にありがちなそういった想定外もうまく利用し、その場で株式会社オオスミの環境調査体験ブースを完成させていきました。

イベントスタートの時間になると公園には非常に多くの人が集まっています。様々なイベントがある中なるべく多くの人にこのブースを体験してもらいたいという想いで声を出します。ターゲットは小学生でしたが、もっと小さい子供から大人の方まで、チームの皆の力で、たくさんの方がブースに興味を持ってもらい体験をしてもらう事ができました。

多くの人に、「環境分析」や「環境調査」ってこんなことをしているんだと体感してもらう事により、身近な運河というところから地球環境全般に興味を持ち、子供たちの未来の選択肢が広がればよいなと考える半日間となりました。

■執筆者

松川晋弥

株式会社オオスミ 分析技術グループ

〒246-0008 横浜市瀬谷区五貫目町 20-17

TEL : 045-924-1051 FAX : 045-924-1916